



# せせらぎ通信

## 平岡幼稚園の 生物多様性保全の 取り組みについて

学校法人 平岡学園 平岡幼稚園  
副園長 堀田佳之介

本園では、平成21年度より園内(6.594㎡)をビオトープ化し、子ども達と一緒に地域の生物多様性の保全活動をしております。神奈川県レッドデータブックリストの絶滅危惧種19種をはじめ、沢山の生き物が集まってきました。

### 平岡幼稚園の生物多様性 保全の方法 ビオトープ作り

神奈川県内で生物多様性に一番富んだ場所は、谷戸(林・水辺・湿地・草地などが一体となった丘陵の谷の部分)というように様々な環境が複合した場所は多くの生き物を育みます。

本園では、  
ジメジメ ↓ 乾燥  
明るい ↓ 薄暗い  
開放的 ↓ 閉鎖的  
など多様なタイプの水辺  
や草地を作っています。

### 地域の生き物を 呼び込む

自然環境の劣化が進んでいる現在、生き物の新たな行き場を作り、維持していくことが、地域の生物多様性を豊かにしていくことに繋がります。



本園では、生き物を人為的に持ち込むのではなく、生き物が好むような多様なタイプの環境を用意し、自然に集まってくるのを待ちます。

周囲に住む生き物を呼び込むということとは、その土地に昔から住んでいる在来種を呼び込むということです。

在来種の生き物達が集まり、繋がり合っていくことで生態系が構築され、地域の特徴ある自然が現れてきます。

### 多様な環境と繋がりが大切です

生き物は種の競合を避ける為、生活環境を分散させています。例えばトンボも種によって好む環境が違います。

流水 ↓ 止水  
丘陵 ↓ 低地  
上流 ↓ 中流 ↓ 下流

明暗広狭、閉鎖⇄開放、など様々です。単純に水があれば、沢山の種類のトンボが発生する訳ではありません。

また、生育の過程で複数の環境を必要とする生き物も数多くいます。

例えば、ハグロトンボの幼虫は、流れの緩やかな水辺に植物などが繁る河川で育ち、羽化すると樹林など薄暗い場所に移動して、産卵の頃にまた河川に戻ります。

つまり、ハグロトンボが育つには、水辺に植物などが繁る流れの緩やかな川と、その周辺に薄暗い林などの環境があることが必要です。



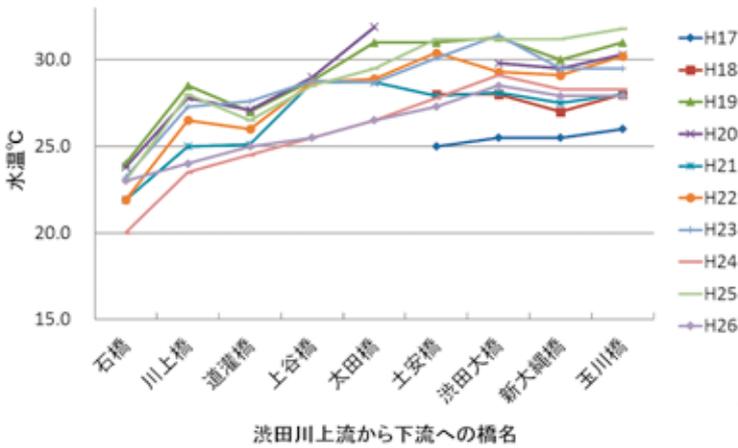
このように、生物多様性の保全には、多種多様な自然環境があること、それらが繋がり合つようなネットワークが必要です。

### 関東・水と緑のネットワーク拠点 百選に選ばれました

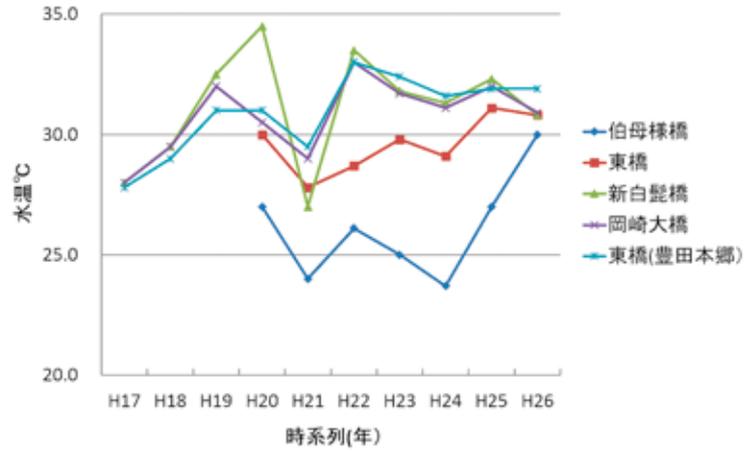
平岡幼稚園ビオトープが、今年関東・水と緑のネットワーク拠点百選の選定地に選ばれました。

本園のビオトープが地域に住む生き物たちのネットワーク拠点として役割を果たしていくと共に、金目川水系流域ネットワークの皆様と連携をして、私たちの住む地域の生物多様性の保全を行ってきたいと思っています。

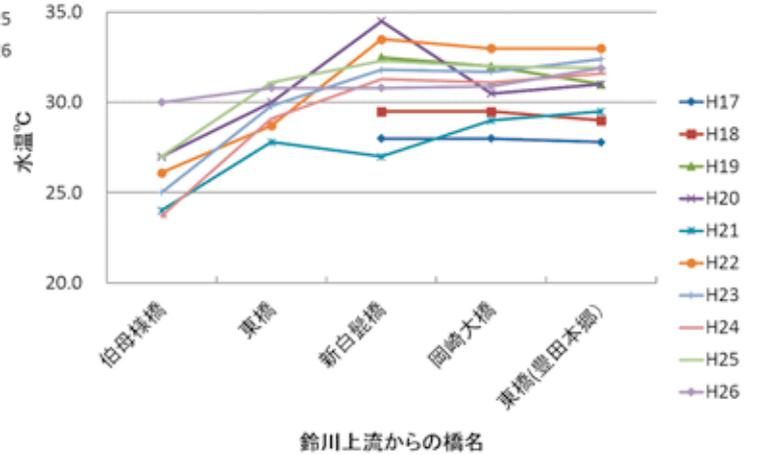
渋田川上流から下流への水温変化



鈴川各橋の水温時系列変化



鈴川上流から下流への水温変化



●平成18年8月16日

前年比水温は調査地点の57%が1℃以上の上昇。

●平成19年8月16日

水温はさらに前年比、調査地点の73%が1℃以上の上昇。

・葛葉川の葛葉橋付近ではヘドロが発酵してスカムが多量に発生。・大根川の大畑橋では、アユが浮遊して見るからに汚い。

●平成20年8月16日

水温はさらに前年比で3年連続して、調査地点の61%が1℃以上の上昇。

●平成21年8月16日

水温は急に前年比調査地点の94%がマイナスとなった。

要因は1つに、台風9号によって豪雨禍が発生し、川は異常に増水して、生い茂る夏草は流されてなくなりました。

●平成22年8月15日

水温は前年比において逆に、調査地点の90%が上昇しています。

夏の気温が連日夏日と高く、河原の夏草は2m以上と例年以上に生育しています。又、河原で遊ぶ人たちが多くなり、ふれ合いの場となっています。

●平成23年8月14日

水温は前年比において、調査地点の52%が上昇、マイナスが34%、変化なしで同温が14%の状況です。河原の夏草の生育は2m以下が多い。今年も河原で遊ぶ人たちが多し。残念だがごみが今年は目立ちました。

●平成24年8月12日

水温は前年比において、調査地点の90%がマイナスになっています。

6月19日の台風4号と7月14日の豪雨で、異常な増水をし、河原の草木はすべて流され、金目川が決壊寸前の状況となった。

一方、天然のアユは中流で見られました。

●平成25年8月11日

水温は前年比において、調査地点の92%が上昇です。気温は32℃を超える猛暑の夏日が連続していました。天然アユが遡上して釣り人が目立った。

●平成26年8月17日、水温は前年比において、調査地点の90%がマイナスです。8月10日台風11号の来襲があった。

文責 柳川三郎  
グラフ作成 佐藤道夫

# —10年間の真夏の

## 水温測定からみた河川環境—

平成17年、私たちは近くの川の水温はどの位か、そして、どのように変化していくかの調査を金目川水系流域の上・中・下流域の橋を調査地点として始めました。

その日は、急に雷が鳴りスコールが30分続いて、そのあとは晴れての急変の天候でした。

私たち自らが周辺流域の水温を明らかにすることによって、水環境に対する注意力が高まり、ごみの散乱が気になって仕方がない状況でした。きれいな川にしたいとの共通の問題意識を持ちました。

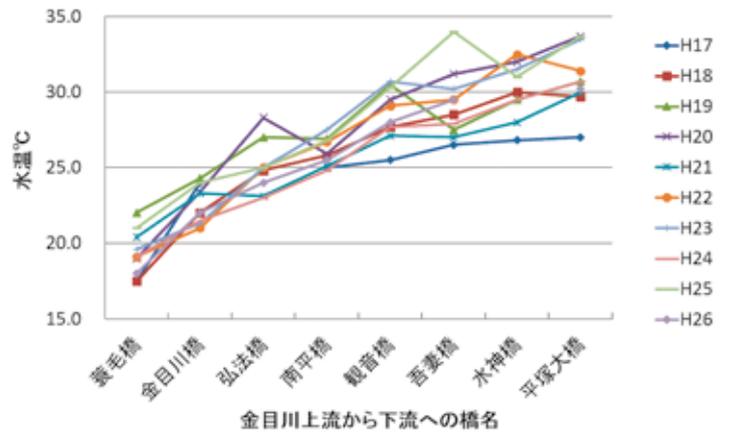
私たちは調査地点を流域66の橋で行っています。真夏の暑い盛りの調査は体がほてって健康が心配な時も生じています。

アユが生育する適温以上のより高い水温を心配しました。そのためには河畔林の必要性や、水辺のヨシ等が必要だと考えています。

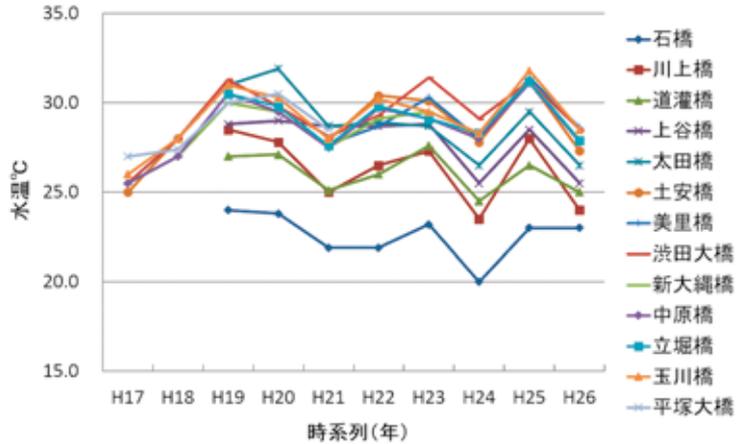
私は川の水温と気温との相関関係があると判断しています。この10年間、気候変化は予想を超えてゲリラ豪雨をひんぱんに発生させています。

<年次ごとの分析結果を以下に記載いたします>

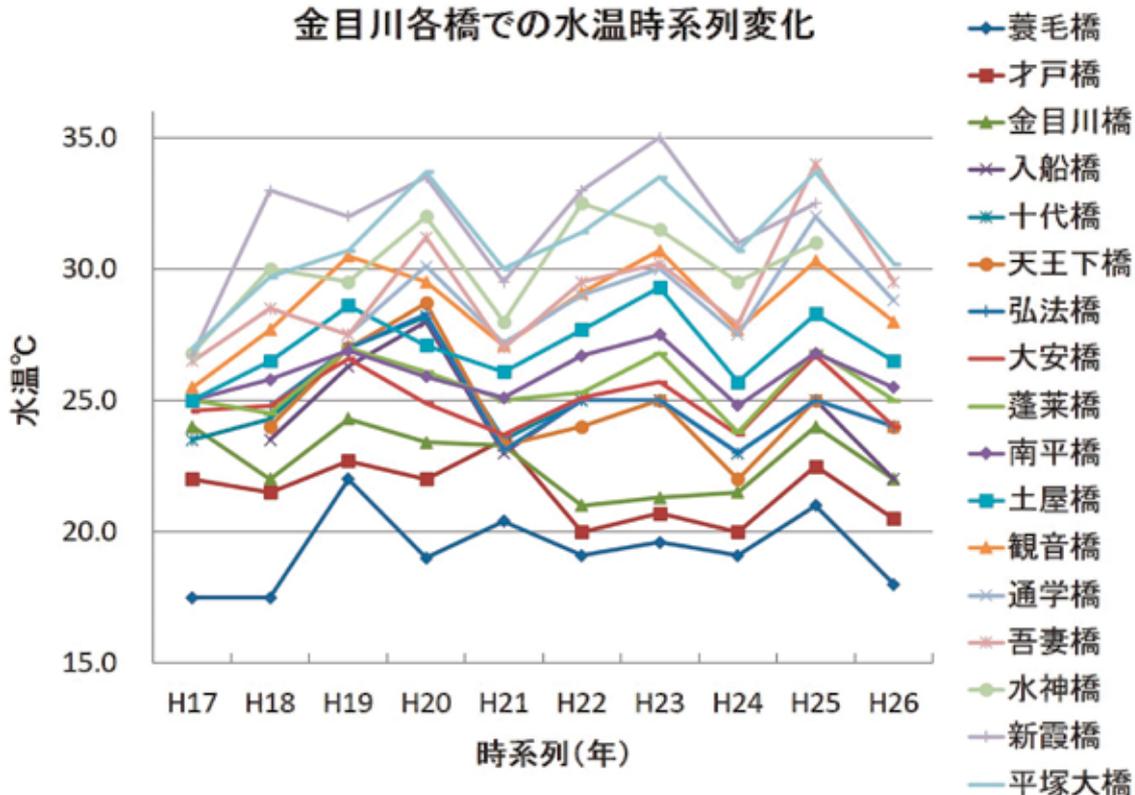
金目川上流から下流への水温変化



洪田川各橋での水温時系列変化



金目川各橋での水温時系列変化



身近な水辺のCODについて 平成26年6月現在

身近な水環境の全国一斉調査に参加して、金目川水系流域のCODを調べ、CODマップを作りました。CODとは、化学的酸素要求量のことです。私たちの生活雑排水による水の汚れを示す指標です。きれいな水は1〜2です。数値が大きいくほど、汚れています。



- ・水の汚れを調べるきっかけになる。
- ・金目川中流域は、梅雨時のドシャブリの雨の中での調査であり、参考データ。

文責 柳川三郎  
マップ作成 佐藤道夫

## 「湘南里川づくり」取組みのご紹介 ～イベントのご案内～



“湘南里川(さとかわ)づくり”とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民主体による清掃、植栽、生き物観察会などの河川等の保全・活用を、流域全体に広げていく取組みです。

みんなの会の構成員である「湘南里川見守り隊」は環境関連イベントを実施しております。みんなの会ホームページで紹介しておりますので、ぜひご参加ください。

また、みんなの会としても今秋は秦野市民の日をはじめとして地域のイベントに出展する予定ですので、出展イベントにお越しになる際はぜひお立ち寄りください。

・見守り隊のイベント:みんなの会ホームページ内「催しものご案内」

<http://www.satokawa.com/moyooshi.cgi>

・みんなの会出展イベント:

みんなの会ホームページ内

「みんなの会からのお知らせ」

[http://www.satokawa.com/about\\_oshirase.cgi](http://www.satokawa.com/about_oshirase.cgi)

※今後の情報は決定次第順次更新していきます。



湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで!

里川づくり

検索

### ●お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター 企画調整課

電話 (0463) 22-9186 (ダイヤルイン)

ホームページアドレス <http://www.satokawa.com/>